

市長記者会見記録

日時：2025年5月7日（水）14時00分～14時33分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《武蔵小杉における開発等について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。それでは、早速質疑に入りますが、まずは幹事社様からよろしくお願いいたします。

【毎日（幹事社）】 幹事社の毎日新聞です。よろしくお願いします。武蔵小杉駅、2029年にかけて新たに3棟の高層マンションの建設が予定されています。これらのマンション、川崎市の再開発事業として、周辺に公園や歩道を設けることで容積率の緩和を認めているという形になります。今後も市として、住民や市民に資するという考えならば、民間事業者からの容積率緩和の要請を受けて高層マンション建設を認めるというお立場なのでしょうか。

【市長】 川崎市内それぞれの拠点においてどういう地区計画があって、こういうまちづくっていくきたいという構想があって、それに基づいて、これまでまちづくりを進めています。その中で、今御指摘の小杉のエリアについては、歩いて暮らせるというか、コンパクトなまちづくりというまちづくり方針に基づいて容積を緩和してという取組を進めてきました。今後についても、武蔵小杉という、あの周辺のまちのコンセプトに合った形でまちづくりを進めていくというのはコンセプトどおりということでありまして、単純に高層ビルがいいか悪いかとかということではなくて、そのコンセプトに合っているかどうかということがとても大事なので、そういった意味で判断をしていきたいと思っております。

【毎日（幹事社）】 コンセプトに合っているならば、今後ケース・バイ・ケースで容積率緩和を市として後押ししていくという形になりますか。

【市長】 そうですね。

【毎日（幹事社）】 あと、横浜市とか神戸市のように一定地域、例えば横浜だと関内駅周辺とか横浜駅周辺とか、神戸だと三宮辺りですか、一定地域では住宅の建設の禁止や、あと容積率の緩和を認めない、事実上、要は高層マンションの建設を制限するような条例をつくっています。今後、市としてそのような条例をつくるような政策を進めるという考えはおありでしょうか。

【市長】 僕も、神戸の取組なんかも見ても、久元市長なんかともこういう話をしますけれども、例えば神戸の事例というのは、まさに地区の事情があって、三宮の地区の辺りですと、どうしてもこのままでいくと住宅ばかりになってしまう、それは避けたいという思いから、住宅による高層化というのは避けたいというのは、私も三宮だったらそう思うだろうな

と思います。ですから、その土地の地区の開発状況だとかということを見ながらやっていくのは、もう本当にそのとおりだと思いますし、冒頭私が申し上げたように、その地区がどうまちづくりをしていくのかという方針に基づいてやっていくことなので、一律に条例をつくって、市全部一律にということは現在考えておりません。

【毎日（幹事社）】 例えば、川崎駅周辺とか繁華街辺りは、住宅じゃなくて商業施設を優先したりとか、そういう考えで条例をつくるということは考えないということですか。

【市長】 まさにそれはまちづくり方針の中で決めていくことになるので、条例で一概に定義しなくてもそれは可能だとは思いますが。

《令和7年度当初の教員未充足の状況について》

【産経（幹事社）】 産経新聞です。市立小学校の教員の未充足数について先日発表がありましたけれども、前年度よりは減ったといえども、122.5人で35人学級が実現できていない学校も幾つかあるという状況ですけれども、市長の受け止めをお願いします。

【市長】 今おっしゃっていただいたように、昨年よりかは、若干でありますけれども、ましになったということでもありますけれども、それで言っても非常に深刻な問題だと受け止めています。教科によってはなかなか充足することができないということがかなり深刻になっていて、まさに教頭先生が教えたりとかという事態にも発展しているということを重く受け止めております。厳しい中ではありますけれども、いろんな工夫をして採用につなげていきたいとは思っております。

【産経（幹事社）】 横浜と比べてもこの人数は多いんですけれども、川崎としての難しさみたいなのはあるのでしょうか、あるいは川崎の努力が足りないということなのでしょうか。

【市長】 こういった都市部、特に川崎、まだ人口が増えている部分もありますし、難しさはあると思いますけれども、どこと比較してどうのということではないかと思います。しっかり足元を見て、難しさという、厳しさに対して、川崎独自で打ち出しているものもござえますし、そういったものをしっかり組み合わせてやっていかなければいけないなと課題感、危機感を強くしているところです。

【産経（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 幹事社様、よろしいですか。では、ここからは他社さんということで。

《公立高校の併願制について》

【朝日】 どうも朝日新聞でございます。政府が公立高校の併願制を打ち出していますけれども、今後は各都道府県で判断するということになりますが、市立高校でデジタル併願制の導入について、現時点でのお考えをお聞かせください。

【市長】 具体的に私、教育委員会とこの併願制について話しているということはありません。ただ、今後併願制という話が具体化してくると、公立高校全般、川崎市立の高校も含めて影響が出てくるということになりますから、しっかりと議論していかなくちゃいけないと思っています。幾分高校無償化の話というのは、突然というほどでもないかもしれませんが

んけれども、一気にかじを切られるということに対して、無償化の話と公立高校が抱える課題が必ずしも一緒に議論されていないということに対しては、これまでも言ってきたかどうか分かりませんが、かなり違和感を感じています。ただ、現実には現実としてございますので、しっかり教育委員会とも議論していきたいと思っていますし、本市とすれば、神奈川県立の県立高校とのどうしていくのかということをお早急に話していかなくちゃいけないだろうと課題感としては持っております。

【朝日】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

《等々力緑地再編整備事業について》

【フリーランス】 よろしくお願ひします。等々力緑地再編整備について何点か質問させていただきます。なお、本日午前に、本件所管の再編整備室の方々にお時間を取っていただいて、室長をはじめとする担当職員4名の方の御認識はもう確認済みですので、この場では、分かる範囲で構いませんので、市長御自身のお考えをぜひ教えてください。

【市長】 はい。

【フリーランス】 まず、樹木の伐採について。先月のオープンハウス型説明会に私も現地参加しまして、事業者等に等々力緑地の伐採本数を確認したんですけども、現時点では明かせない、遅くとも工事開始の1か月前頃に予定している住民説明会ではさすがに公表するとのことでした。しかし、これ、当日配られた、インターネットでも公開されている図面なんですけれども図面はほぼほぼ出来上がっているわけですよ。ですので、例えば800本以上900本以下とか、幅を持たせて伐採本数のめどを発表することは現時点でも十分に可能なわけですよ。もう工事開始まで半年を切っているのに伐採本数の見込みすら隠すとなると、全国的にも悪い意味で注目を集めてしまった神宮外苑の再開発、ああいったものよりも情報公開の透明性で劣ると見られかねないというところで、川崎市長として、事業者に対して伐採本数を早急に公表するように働きかけるべきではないでしょうか。お願いします。

【市長】 まず、御質問の中で「隠す」という御発言がありましたけど、隠しているつもりは全くありません。私、この会見の場でも繰り返し言っているんですけども、事業費が非常に高騰しているということでありまして、自由提案施設をはじめとしてどうしていくのかということをお事業者とも交渉していかなくちゃいけないという中で何を建てるのか、どういうものにしていくのかというのが固まらないうと、具体的な緑がどこまで影響してくるのかということが定まらないものですから、そういった意味で、まだ確定しないということだと思います。私としてもできるだけ早く、こういうものを作っていきま、ゆえに緑の影響はこういう形で出てきますということは、早く住民の皆さん、市民の皆さんにお伝えすべきだと思っていますので、それが準備でき次第、速やかにやっていきたいと思っています。

今、担当が1か月前と言ったということ……。

【フリーランス】 事業者の方です。

【市長】 事業者の方ですか。

【フリーランス】 はい。

【市長】 というのは私承知しておりませんが、思いとすれば、なるべく早くそういったものは説明すべきだとは思っています。

以上です。

【フリーランス】 ありがとうございます。とはいえ、私が指摘したとおり、見込み値は出せるわけで、何本以上、何本以下という見込み値は今すぐ出せるわけじゃないですか。なぜそれをしないんですか。そうすると、隠すと見られても仕方ないんじゃないですか。

【市長】 いや、ですから、何をつくるのかということが確定していない段階で、どこに何をもって固まらないで、緑がどう影響するかというのがなかなか言えないので、そこは隠しているということではなくて、決まらないものについて隠すも何もないということだと思いますけれども。

【フリーランス】 それでも幅を持って発表することはできるわけで、それについてのお答えはなかったと思います。

【市長】 ちょっとよろしいですか。まだ決まっていないものを、幅を持って出せ、幅を持って出せて言っても、不確定な数字を出すことこそ、あまり誠実ではないのではないかなと私は思います。

以上です。

【フリーランス】 真逆ですね。むしろ川崎市や事業者が伐採本数を一切公表しないから市民は正確な情報を知ることができない状況を生み出しています。具体的に言うと、市民団体の方がわざわざ現地調査をして、昨年時点で伐採本数は800本前後と試算をされました。しかし、川崎市、事業者は一切公表しないので、今この数値だけがいわゆる独り歩きしてしまっている状況です。先月の説明会の内容を見たところ、伐採エリアがさらに広がっていましたので、800本を確実に超えて、1,000本前後なんじゃないですか、伐採本数は。

【市長】 いや、全く承知しておりません。

【フリーランス】 市長は伐採本数を全く把握していないという理解でよろしいですか。

【市長】 伐採本数って、緑に影響があることは確かだと思います。ですから、幅を持った言い方というのがやや誠実さに欠けるのではないかなと思います。ですから、何をつくる、あるいは、例えば道路のことについても緑の影響は出てくると思いますから、そういった意味では、ちゃんとしたものを、ある程度のものを、こういうものをつくっていきますということから基づいて緑の影響を出していくべきだとは思っています。

【フリーランス】 お考えは分かりました。御自分のお言葉で説明していただいてありがとうございます。

関連して2点目、商業施設についても聞きたいんですけど、続けて質問してもいいですか。等々力緑地再編整備の商業施設についても続けて聞いてしまってもいいですか。

【司会】 どうぞ。

【フリーランス】 じゃ、続けて質問します。長くなって、すいません。これも同様に午前中に所管の方の認識は確認しているので御存じの範囲で構わないので、市長御自身のお言葉でぜひ御説明ください。先月のオープンハウス型説明会に私が現地参加した際に、住民の声を無視したまま計画が進められている現状に対して、抗議をする地元住民の方々を多数見かけました。こうした不信感を抱いた理由として、最も大きなものとして、商業施設18棟の乱立と立体駐車場2か所の建設をぎりぎりまで隠したと判断せざるを得なかったことが大きかったと地元住民の方々の声からも分かりました。ですので、その点について質問します。これらの建設について、今から2年以上前に当たる2023年4月の時点で決定をしていたと事業者からは確認が取れています。しかし、その翌月、2023年5月に開催されたオープンハウス型説明会では、商業施設の乱立と立体駐車場の建設が全く読み取れない資料を川崎市は作成して、来場者に配布をしていました。それから1年後、2024年6月のオープンハウス型説明会で、初めて商業施設乱立と立体駐車場建設が資料に明記されて、ここでもようやく一般市民の方々も計画の実態に気づいて、抗議運動、反対運動が活発化してきましたけれども、既に計画は着々と進んでいて、見直しのハードルを引き上げてしまいました。こういった経緯をたどると、川崎市は意図的に住民からの反発が大きいであろう商業施設18棟の乱立と立体駐車場2か所の建設を、2023年4月から2024年6月まで1年以上も隠していたと判断せざるを得ないんですけれども、これについて御意見を伺えますか。

【市長】 まず、隠す、隠すっておっしゃっているけど、私たちは隠すようなことは全くありません。その意図もありませんし、全く意味がない話でありますので、住民の皆さんに説明してきているところです。私、事業説明会で、令和5年の6月と令和6年5月だったかな、という資料を見えていますけれども、令和5年6月のときにも、詳細に何が入るかというのは記載されていませんけれども、例えば自由提案施設ということで、施設が建っている状況は書かれておりますし、自由提案施設ができますよということは、これを見ていただいても詳しくはなるものかというのはまだ提案もなされてない状況ですので、正直、詳しくはこの時点では分からないわけです。令和6年5月のところではある程度、例えば立体駐車場だとかというものを記載した図面が描かれておりますので、その時期に合わせた、知り得ている情報というのを説明してきたと私は認識しております。

【フリーランス】 御説明ありがとうございました。今恐らく全く同じ資料を見ていると思うので、それに基づいてお聞きします。一昨年の資料に書かれていた、そのとおりなんです。書かれていたんです。でも、重要なのは、これは一般市民には絶対気づけない形で確かに書かれていました、こっそりと。具体的には、自由提案施設に関しては全て灰色で描かれて、幾つか描かれているんですけれども、1か所だけ赤線で線が引かれて自由提案施設と確かに線が引かれています。しかし、約18棟、そこまで商業施設が乱立するというのはここからは読み取れません。その1年後、2024年の説明会の資料を見ると、小さくて見えない

と思うんですけど、ほぼほぼ同じで、自由提案施設が18か所というところだけが付け加えられている。どう見てもこの図面を見比べたら、ピンポイントで不都合な部分を隠したと読み取らざるを得ないんですよ。

【市長】 正直、これ、1年ぐらいたって、事業というか、計画の提案というのが進捗しているということをただ記載しているだけであって、あまりうがって見ていただかなくても、普通に見ていただければいいのではないかなと。まず私たち、隠す意図もないですし、住民の皆さんからの理解を得ながら進めていくというのは基本にありますから、あまりうがって見ていただきたいなとは素直に思います。

【フリーランス】 お考えは分かりました。全て御自分の言葉で答えていただいて、ありがとうございました。終わります。ありがとうございます。

【司会】 各社さん、ほかの方。

《川崎区で発生した死体遺棄事件等について》

【テレビ朝日】 テレビ朝日です。よろしくお願いします。岡崎彩咲陽さんが亡くなられた事件に関連してお伺いしたいんですけれども、川崎市さんでは、岡崎さんですとか御親族、また関係者の方から相談というのは受けられていたのでしょうか。

【市長】 少なくとも今回の事件に関連するような相談は受けていないということであります。

【テレビ朝日】 ありがとうございます。それというのは、事件の発覚後、何か調査というか、情報収集されたのでしょうか。調査をされた中で特に相談が……。

【市長】 そういうことです。

【テレビ朝日】 ちなみに、県警のほうにはいろいろ相談があったという報道もありますけれども、例えば県警からの情報共有ですとか、情報共有じゃなくても何か連携をされたようなことはあるのでしょうか。

【市長】 いえ、全くありません。と聞いています。

【テレビ朝日】 川崎市さんとしては、岡崎彩咲陽さんと元交際相手をめぐる問題については……。

【市長】 例えば私どもの所管しているところで言うと、DVに対する相談というのは窓口がありますので、そういったところに相談があったかということでは、それはございませんということですし、今回のことに関連するような警察とのやり取りもないということであります。

【テレビ朝日】 ありがとうございます。その上で改めて、川崎市の中でこういった事件が起きてしまったということを受けて、例えば市としてはどういうことができ得たのか、または今後でき得るのかということはいかがお考えでしょうか。

【市長】 本当にあまりにも痛ましい事件で、どうやったらこれが防げたのかということについては、正しい情報に基づいてしっかりと検証されるべきものだと思います。その中で、これはあくまでも仮定の話でありますけれども、市としてできたことがあるのかないの

かということも含めて、正確な情報を検証されるべきだという思いであります。

【テレビ朝日】 ありがとうございます。もう一言すいません、川崎市さんとして、こういったDVとかストーカー被害についてどういうふうに対応していきたいというところを一般論でお願いします。

【市長】 年間、DVという相談窓口でも大体400件とかあって、延べ数になりますけれども、人数で言うと複数回相談される方が多いものですから、そういうことで言いますと、いろんな相談があって、本当に保護が必要な場合には、例えばシェルターのほうに入っただけのようなことは、その状況によって対応しているということでもありますけれども、例えばストーキングというか、ストーカー行為みたいな話という、やはり安全に関わる事案が多い、緊急性が高い事案が多いので、そういった窓口でも、警察にまず相談、行ってくださいというような御案内をさせていただいているようです。

【司会】 お願いします。

【朝日】 どうも朝日新聞です。関連ですいません。情報検証されるべきだというのは県警がということでしょうか。

【市長】 一義的にはそういうことになるかと思います。私もあくまでも報道でしか見てないのであれですけども、意見がいろいろ食い違っているということもあるようですので、いろんな臆測がネット上を含めていろいろ出てくるわけですけども、しっかりと正しい情報をつなぎ合わせて、何が正しい情報で、そして何ができたのかということ、まず一義的な主体であるところが検証していくべきなのではないかと思っています。それは警察も含まれるということです。

【朝日】 市が検証するという意味ではないですね。

【市長】 市としては今、何の権限もありませんので。

【朝日】 あと、DVの窓口は設けているけれども、ストーカー案件についての窓口がないというのは、ストーカー規制法という所管が警察だからという理解でよろしいのでしょうか。

【市長】 というのはストーカー行為、特に身体安全に関わるようなことは、まず一義的には警察に御相談くださいという御案内をしているということです。

【朝日】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問。

どうぞ。

【神奈川】 神奈川新聞ですけども、今の質問の関連なんですが、やっぱりそれぞれのやる立場があるからこそ、その辺をしっかりとやるべきだとか、市民にとっては、警察だけじゃなくて市もやってよとか思う人もいるとは思いますが、その辺りの入る難しさみたいなものがもしあれば教えていただければ。入っていく難しさとか。

【市長】 入っていく難しさですか。

【神奈川】 あくまでもそこは警察のところだし、市はその部分ではやっぱり入っていけ

ないというか。

【市長】 そうですね。あくまでもストーカー行為みたいなものは、規制法に基づいての対処、執行になりますので、そう考えますと、私どもの、こういう言い方が適切かどうか分かりませんが、警察マターになってしまうということはあります。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問ございますでしょうか。

《AFCチャンピオンズリーグ・エリートについて》

【t v k】 テレビ神奈川です。今月3日にサッカーのAFCチャンピオンズリーグエリートの決勝で川崎フロンターレが惜しくも初優勝を逃してしまったんですけれども、市長としてはどういうふうに考えますか。

【市長】 よく頑張ってくれたと思っています。ちょっと気持ちの切替えがあれですけど、素直にそこは、最終悔しかったんですけど、でも、よくやってくれたなと思っています。とても誇りに感じています。

【t v k】 ありがとうございます。

【市長】 さっきの話と気持ちの切替えがなかなか難しくて、ごめんなさい。

【司会】 ほか、よろしいでしょうか。

《川崎区で発生した死体遺棄事件等について》

【テレビ朝日】 すいません、続いて、彩咲陽さんの件に戻って、これまで相談等情報もなかった上でということなんですけど、今回こういった事案が川崎市内であったということを受けて、今後の川崎市、こういったところが改善できるか、事件があった川崎市だからこそこうしていきたいとか、何か思われるようなことがあったら。

【市長】 繰り返しになりますけれども、この事件の概要がしっかりと解明されて、その中で、仮にも市ができる、あるいは介入すべき事柄が出てくるものであれば、ぜひそれは考えていきたいと思っておりますけれども、今回の事件が起きたから、ある意味権限を越えて何かやっていくというのは一義的に違うのではないかなと思っていますので、まず一旦話の整理をすべきだと、検証されるべきだと。どうしてこういう痛ましい事件になってしまったのかということ、経緯を含めて時系列的に検証されるべきだと思っています。

【テレビ朝日】 ちなみにそれって、検証というのは例えば、神奈川県がやるべきだとか、どこがやるべきだというのは……。

【市長】 一義的には、まず警察の話になるんだと思います。そこと当事者の御家族だとか、当事者との記録というのもそこはお持ちなんだろうから、今で言うと、残念ながら被害者も加害者も市民だということでもありますので、そういう意味では本市ということでもありますけれども、対策だとか検証だとかということが出来る立場ではないので、そういう意味では、自分事の話なんですけれども、私たちの権限が及ぶところではないので、まずそこはしっかり当事者のところで検証されてほしいというのが私の願いです。

【テレビ朝日】 まずは、県警が事後検証をすべきだということ……。

【市長】　そうですね。そういうことだと思います。というのは、どうなっているのというのは、公式見解みたいなのはまだないんだと思うんですけど、そこがクリアになってこない、いろんな方が臆測で話していても混乱を招くだけなのではないかと思っています。

【テレビ朝日】　例えば、検証ってどのくらいのスピード感でやってほしいなという思いがありますか。

【市長】　いや、それは当事者でない私が言うべき話ではないと思います。

《AFCチャンピオンズリーグ・エリートについて》

【産経（幹事社）】　すいません。ACLのほうに戻るんですけども、今回は準優勝ということで、一サポーターとして、Jリーグの過密日程とかサウジアラビアでの集中開催とか、いろいろと議論というか、意見がありますけれども、市長の思うところをお聞かせください。

【市長】　個人的には応援に行きたかったというのはありますけど、でも本当に、過密日程、選手からすると、帰ってきて、またリーグでも戦わなくちゃいけないし、気温のこともありますし、いろんな条件がある中で本当に大変だなと思っていますけど、僕が注文っぽいことを言うのは不適切なので申し上げますが、いずれにしても本当に大変な中、よく頑張ってくれたと、もうそれをたたえたいという思いだけです。

【産経（幹事社）】　分かりました。ありがとうございます。

《マイナンバーカードの更新事務について》

【神奈川】　すいません、マイナンバーカードの交付のマイナポイントのつくったところからのちょうど5年というところで更新時期を迎えているところで、川崎市、相当窓口が混んでいるというようなお話をちょっと耳にしたんですけども、なかなかそこはうまく、この間も、事業者がちょっと不祥事、不祥事じゃないですけど、更新をミスったりとか、なかなかうまくいってないように映るんですけども、市長として今、川崎市のマイナカードの更新状況はどういうふうに捉えていて、今後どうしていかないといけないと思っているか教えてください。

【市長】　非常にずっと混んでいる状態が続いていて、私の「市長への手紙」もそうですが、窓口でも、もう誕生日が来てしまうだけだぞという厳しい御意見もいただいて、会計年度の任用職員の方を増やしたりとか応援体制を取ったりとかという様々な対策を講じていますが、窓口を増やしたりとかしていますが、それでもなお厳しいということです、今後抜本的な改善をやっていかなくちゃいけないと思っていますので、今後も非常に厳しいというか、令和8年になるともっと厳しくなってくる。今後も厳しい状況で、8年はもっと厳しいと。要は、最初に取った人が10年目を迎える、最大の更新期が来るとかということになりますので、それに向けての抜本的な改善も、体制を整えなくちゃいけないので、そういった意味ではもう今々もやらなくちゃいけないし、今後についてもさらに体制を整えなくちゃいけないという意味では、今回のマイナ保険証のところで一気に増えているとか、もうちょっと前に行けば、駆け込みの話も、これをやったらポイントを差上げますみたいなキャンペーンもありましたし、そういうことが自治体業務の中で平準化できないような

ことにもつながるので、なるべくそういったことが起きないような国の対応を求めたいと思いますし、自治体として私たちとしてやるべきことはしっかりやっていかなくちゃいけないという思いです。

【神奈川】 そういう意味では若干、市としても見込みが甘かったみたいなどころにはなってくるんですが、やっぱり予想以上に混んでしまったなというような、それとも見込みは立っていたけど……。

【市長】 それは、ちょっと見込みが甘かったと言わざるを得ないと素直に思います。ここまでという影響が来るかというのは、率直に見込みの甘さはあると思いますし、次来る山というものにしっかり備えたいと思っております。

【神奈川】 ありがとうございます。

【司会】 ほか、御質問よろしいでしょうか。

よろしければ、以上で定例の市長記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当